

あかるく かしこく たくましく

令和7年1月30日 No. 40 文責：校長 佐野紳二

イチロー氏の言葉

先週の火曜日、21日に元メジャーリーガーのイチロー（鈴木一朗）氏のアメリカ野球殿堂入りが発表されました。日本人初、そして得票率99.7%（満票に1票足りず）ということで大きな話題にもなりました。それに先駆け、16日には日本の野球殿堂入りも果たし、日米両方での野球殿堂入りとなりました。（もちろん、これも史上初です）

イチロー氏は28年間の現役生活の中で日米通算4367本のヒットを放ち（ギネスブックに載っている記録です）、通算打率.322、盗塁708、日米通算で9回の首位打者、メジャー記録となる年間262安打など、輝かしい成績を数々残した名プレーヤーであり、第2回ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）の決勝戦では決勝の2点適時打を放つなど、記録にも記憶にも残る選手でした。

現在は高校野球の指導にも積極的に取り組んでいるイチロー氏ですが、その圧倒的な記録とともに、言葉の力にも素晴らしいものがあり、これまでに数々の名言を残しています。今回の野球殿堂入りに際してのコメントの中にも、とても印象に残った言葉がありました。それは以下のようなものです。



（前略）才能ある人たちはたくさんいます。僕の比較にならないくらい才能にあふれた人はいっぱいいます。それを生かすも殺すも、自分自身だということです。**自分の能力を生かす能力がまた別にある**ということを知っておいてほしい。才能があるのになかなか生かせないという人はいっぱいいます。ケガに苦しむ人もいます。自分をどれだけ知っているかは、結果に大きく影響しているということを知っておいてマイナスはないと思います。

「う～ん、確かにその通りだなあ…。」と思わず唸ってしまいます。別のところでイチロー氏は、

努力せずに何かできるようになる人のことを「天才」というのなら、僕はそうじゃない。
努力した結果、何かができるようになる人のことを「天才」というのなら、僕はそうだと思う。
人が僕のことを、努力もせずに打てるんだと思うなら、それは間違いです。

という言葉を残しています。今回のコメントは「努力することが大切」というだけでなく、自己分析をすることや、自分を俯瞰的に見つめること、普段からの節制、等々…いろいろなことを含んだ言葉だと思いますが、是非、多くの子どもたちにも知っておいてほしい言葉だと思いました。

学校通信 No.28 の中でもイチロー氏の言葉は紹介していますし、飯久保前校長先生も学校通信の中でイチロー氏の名言を何度も採り上げていますが、今日の学校通信でも、紙面の許す限りイチロー氏の残した名言を紹介させていただきます。

特別なことをするために特別なことをするのではない、特別なことをするために普段どおりの当たり前のことをする。

夢を掴むことというのは一気に出来ません。
小さなことを積み重ねることで、いつの日か信じられないような力を出せるようになっていきます。

そりゃ、僕だって勉強や野球の練習は嫌いですよ。誰だってそうじゃないですか。つらいし、大抵はつまらないことの繰り返し。でも、僕は子供のころから、目標を持って努力するのが好きなんです。だってその努力が結果として出るのはうれしいじゃないですか。

自分がわからないことに遭遇するときや知らないことに出会ったときに、「お、自分はまだまだいける」と思います。

キャンプでいろいろと試すことは、ムダではありません。
ムダなことを考えて、ムダなことをしないと、伸びません。

びっくりするような好プレイが、勝ちに結びつくことは少ないです。
確実にこなさないといけないプレイを確実にこなせるチームは強いと思います。

今自分がやっていることが好きであるかどうか。
それさえあれば自分を磨こうとするし、常に前に進もうとする自分がいるはず。



イチロー氏のポジティブな思考や小さな努力を積み重ねる姿勢、私も少しでも見習えたらと思います。

3学期の代表委員のみなさんです

先週の火曜日に、オンラインで代表委員の任命式を行ったことは本校のホームページでも紹介させていただきました。そこではお伝えできなかった3学期の代表委員のみなさんをご紹介します。

任命書を受け取る時の子どもたちの姿勢がとても素晴らしく、一人一人の「やる気」が校長にも伝わってきました。3学期は1年間のまとめの学期であるとともに、新年度に向けての準備の学期でもあります。すでに代表委員会にも何度も参加してくれていますが、任命書を受け取ったときの気持ちをいつまでも忘れずに残りの3学期もがんばってほしいと思います。

家庭に配布した学校通信では代表委員の名前を紹介しましたが、ホームページへの掲載は控えさせていただきます。

